三条別院のご案内

三条別院に想う

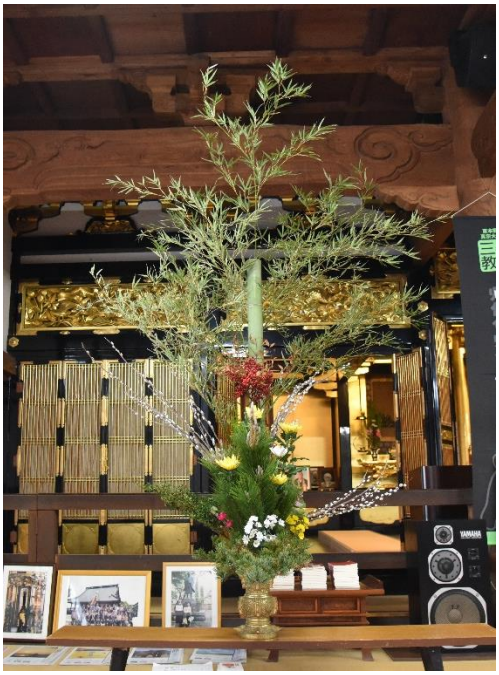
▲今回は、三条別院の立花講習会の担当をされている白鳥賢氏から執筆いただきました。正月から春彼岸の立花について、花材や立て方など、皆さん様々な工夫をされていると思いますが、立て方のコツ等について記していただきます。

三条別院報恩講の仏花を立てさせてもらうようになって十年以上経ったと思います。以前にもこの「三条別院に思う」で私が仏花を始めるきっかけや、仏花に対する思いを書かせて頂きましたが、今回は具体的に仏花の立て方について書いてほしいという依頼なので書かせて頂きます。

仏花を立てる場合、やはり材料は季節に合ったものを選びます。自坊では正月は「竹と松」、春彼岸は「桜」、6月の永代経法要は「夏ハゼと芍薬（しゃくやく）」、お盆は「ハラン」、秋彼岸は「紫苑（しおん）」、報恩講は「松とウメモドキ」といった具合です。お盆のハランは、夏の花材というわけではないですが、暑い時期でもわりに長持ちしますし、涼しそうに見えるので最近使っています。立てるのも簡単です。

真宗大谷派 三条別院
TEL：0256-33-0007
E-mail：sanjobetsuin@wingocn.ne.jp

花材の調達は、花屋さんからも買いますが、基本は自分で探します。門徒さんの庭先や畑のものを切らせてもらったり、山に行って探したり。材料については常にアンテナを張り巡らせて、毎日お参りに行くときもどこかに切らせてもらえる材料はないか探しています。私の先生は「お花は足で立てる」と言われますが、私は車を運転しながらでも探しています。お花立ては材料集めが終われば半分以上できたようなものです。以前「白鳥さんはお花のことばかり考えているんですね」と言われたので「はいそうです！」とお答えしました。



「竹」と「桜」の使い方を書いてほしいという依頼なので書かせてもらいます。竹を使った立て方ですが、今年の正月も竹と松を主にして立てました。竹は水揚げが独特で、それさえ分かっていれば難しいことはありませんし、かなり長持ちします。竹は切ってきたものをそのまま水につけておいても水揚げしません。すぐに葉が丸まってしまいます。ではどうするかというと、竹の節の中に水を入れてやります。竹の幹の裏側に穴をあけ節ごとに水を入れてやれば水揚げします。

穴のあけ方は、ドリルでも良いし、そうでなければ鋸で穴をあけたい場所に横に2本の短い切り込みを入れ、その間を金槌で強くたたくときれいに穴があきます。

もう一つのポイントは、竹の枝についてです。本堂に竹を使う場合かなり太いもの（直径８～１０㎝くらい）を使います。そうすると何も手入れしていない竹ですと、そこから出ている枝は相当長く、その上懐に枝が無いために使えません。

それではどうするか。私が試行錯誤の上考え出したやり方は、添竹式です。

先ず真っすぐな太いきれいな青竹を中心に立てます。これには枝は要りません。（したがって水揚げも要りません）幹を見せるだけです。そしてその後ろに竹の先端に近い部分（幹は細いが枝が混んでいる）を添わせます。そうすると後ろの細い竹の幹は前の太い竹に隠れて見えませんし、前から見ると細い竹の枝があたかも太い竹の幹から出ているように見えます。もちろん後ろの細い竹には先程の水揚げ法を施します。添え竹は枝の出方によっては二本添わせることもあります。

以上で竹の真が立て終わりです。枝の剪定は長い枝を切ったり、混んだところをすかす程度です。あとはそこに松や南天、葉牡丹、猫柳など正月らしい材料を添えれば完成です。それらの材料は正月近くなると花屋さんに売っています。以外に簡単です。写真を参考にしてください。

次に桜についてですが、自坊では春彼岸に使っています。普通の桜は春彼岸にはまだまだ蕾が硬いです。そこでまだ蕾の桜の枝を切ってきて、バケツの水につけたまま暖房のきいた部屋に入れておきます。そうすると１週間ほどで開いてきます。自坊の桜はいつも門徒さんのお宅からいただいてきます。この桜は染井吉野より少し早咲きで色もずっと濃いものです。ただ日光の当たらない部屋の中で咲かせると色が薄くなり丁度良い色になります。以前、染井吉野を加温して咲かせたことがありますが、色が薄くなりすぎて真っ白に

なってしまい見栄えがしませんでした。やはり失敗も勉強です。

春先になると花屋さんでは桜が出回っていますので買ってくるのも良いですが、かなりの量を使いますので花材代は覚悟してください。私は門徒さんからもらってくるのでただです。やはり使える花材がどこにあるか常に足で探しておくのが大切かと思います。

材料さえ手に入れば桜で立てるのはそれほど難しいものではありません。直真にしろ軒真にしろ途中に受筒を取り付けてそこに桜を挿します。受筒は竹でも良いのですが私はペットボトルを使うことが多いです。手に入りやすく、竹と違い肉が薄いので受筒を隠しやすいからです。受筒を取り付ける場所は直真ならば直径2～3センチくらいの心棒を立て、その途中に取りつけます。お花全体の高さの半分くらいの位置かと思いますが材料の長さによって多少変わってきます。その受筒に桜をたくさん挿して後で受筒をヒバかハランで隠します。あとは普通の仏花と同じように手に入る材料を役枝として入れれば完成です。

軒真の場合、受筒はボクの裏側に隠れるように取り付けます。取付位置や角度は桜を入れた時のことをイメージしながら決めます。数は真ならば2～3カ所取り付けます。ボクに添わせて取り付けますし、桜の枝がボクから自然に出ているように見せるため受筒も斜めに取り付けることが多いです。軒真の方が少し難しいかもしれません、直真の方が簡単で桜も量が少なくて済みます。とにかく一回やってみる事です。春彼岸頃はまだ寒いので桜の花もかなり長持ちします。ただ桜はかなり水を吸うので水ぎれにはご注意ください。

私は桜を使うときは松を一緒に使うことが多いです。桜と松は全く対照的な花材ですが、桜は松を添えることにより華やかさを増し、松は桜によって力強さが強調されます。全く違う性質の花材が一緒になることによりさらに美しさを増すように感じます。

以上ざっと書いてみましたが文章ではわかりにくいと思いますので写真を参考にしてください。

仏花が完成し本堂に荘厳したときは、自分が立てたものでありながら思わず手を合わせたくなります。そして今回の法要も頑張ろうという力が湧いてきます。この気持ちは仏花をやる人ならば必ず分かるはずです。「法要は荘厳で決まり、荘厳は仏花で決まる。」これが私の持論です。とにかく始めれば楽しいものです。一緒にやりませんか？

白鳥　賢　氏（第十五組本龍寺住職）

【別院報恩講に内陣出仕する白鳥氏】

○次回の「三条別院に想う」は、

加藤　功　氏（三条スパイス研究所）

よりご執筆いただきます

▲次号は三月の春彼岸会でオリジナル精進カレー「釈迦礼弁当」をお願いしている三条スパイス研究所の調理人の加藤さんより執筆いただきます。精進カレーならではの工夫を含めて、三条別院への想いを記していただきます。

春彼岸会のご案内

春彼岸会を左記の通り厳修いたします。有縁の方々をお誘いあわせの上是非ご参詣下さい。

◇期　日　三月十八日（土）～二十日（月）

◇日程および法話講師

十八日（土）

午後一時三十分より逮夜法要

法話　木名瀬　勝　氏（東京教区浄安寺衆徒）

十九日（日）午前十時より永代経総経

法話　ひき続き　木名瀬　勝　氏

お斎（正午）

午後一時三十分より逮夜法要

法話　ひき続き　木名瀬　勝　氏

二十日（月）午前十時より日中法要

法話　ひき続き　木名瀬　勝　氏

▲法話のＬＩＶＥ配信も行います。

▲十九日正午に、お斎を冥加金二千円にて、ご用意いたします。ご希望の方は三月十三日（月）までにご連絡下さい。お斎は三条スパイス研究所と協力して開発した春の息吹を感じる精進カレー「釈迦礼弁当」です！

▲春彼岸に先立ち、三月十一日（土）午後二時四十六分（東日本大震災発生時刻）に勿忘（わすれな）の鐘を撞きます。

▲法話講師　木名瀬　勝　（きなせまさる）氏

茨城県水戸市浄安寺衆徒。原子力関連施設の総務や病院の事務長を経るが、人生にむなしさを感じ大谷大学真宗学科へ入学し僧侶に。東本願寺の職員となり、三重・名古屋教区駐在教導、本山研修部補導主任を歴任。現在は退職し、研修会の講師などをつとめる。

本山慶讃法要団体参拝募集

◆期　日　四月十四日（金）から十六日（日）

◆本山参拝日　四月十五日（第二期法要初日）

◆参加費　六八，〇〇〇円

本年三月二十五日～四月八日（第一期）、四月十五日～四月二十九日（第二期）まで宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が厳修されます。三条別院では第二期法要の初日に向けて、各組・寺院の団参に申込できなかった方等を対象に、団体参拝を計画しております。**今回参拝する第二期初日法要は、雅楽入りの伝統法要式となっており、さらに御影堂の中央席を確保しております。**声明と雅楽が奏でる音声に共に耳を傾け、共にお念仏申す体験をしてみませんか。そして御本山の参拝に加え、京都国立博物館の親鸞展や、親鸞聖人御誕生の地法界寺にも参拝致します（予定）。皆様お誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。詳細はチラシをご覧ください。三月十四日締切です。

三条別院子ども奉仕団について

三条別院ではお釈迦様の誕生日（四月八日 花まつり）、親鸞聖人の誕生日（四月一日）にあわせて、子ども奉仕団・お誕生法要を毎年開催させていただいておりました。感染症の影響により中止が続いておりましたが、感染予防に努め、規模を変更し開催させていただきます。

初めて会う友達と共に、お寺に触れていただくことで、「いのちの大切さ・本当の私」について考えられるような、楽しい奉仕団を目指しております。本年度のスローガンは「お寺であそぼう花まつり」です。ぜひご参加ください。

詳細はチラシ（既送）をご覧ください。

◇開催日　四月二日（日）

◇対　象　現在小学一年生～五年生の方

（小学新二年生～小学新六年生）

◇会　場　三条別院

◇締　切　**三月十日（金）必着**

◇定　員　三十名

◇その他

三条教区青少年二部門を中心に、スタッフも募集中です。お気軽にご連絡ください！

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃定例法話会

毎月十三日の闡如上人のご命日の定例法話会を宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け事業として昨年より継続しております。

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

◆三月の講師
田澤 一明 氏（第十九組明誓寺）

【田澤 一明 氏】

◆日　時　三月十三日（月）
午後一時三十分より
午後四時三十分（勤行、座談あり）

※講師のご都合で、当初の予定から、二月・三月の講師が入替えになっておりますのでご了承ください。

◆今後の講師
四月　黒田　進　氏（長浜教区満立寺）
五月　井上　円　氏（高田教区淨泉寺）
六月　藤場　芳子　氏（金沢教区常讃寺）

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日（二十七日）はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日　時　三月二十八日（火）午前十時より
◆会　場　三条別院 本堂
◆お勤め（御命日　日中法要）
文類偈　草四句目下
念仏讃　淘五
和　讃　回口　次第六首
回　向　願以此功徳

◎今月の法話講師
橘 宗真 氏（第二十組顯了寺）
『御文』五帖目第十八通（当流聖人）

▲昨年に引き続き御文五帖目をテーマにお話しいただいています。

◆今後の講師一覧
四月　渡邉智子 氏（高田教区本立寺）
五帖目第十四通（上臈下主）

別院声明教室

◇開催日
二月十四日（火）（済）
三月六日（月）・四月十日（月）
五月二十三日（火）・六月五日（月）（全五回）
◇昼の部：三時～五時　◇夜の部：六時～八時
◇講　師
昼の部：三条別院 列座
夜の部：長田 淨見 氏（第十六組 善興寺）
◇講習内容
昼の部：正信偈　草四句目下（赤本の内容）
夜の部：浄土和讃 繰読み（声明集の内容）

【夜の部（右）と昼の部（左）。お気軽にご参加ください】

フードバンクを継続中

―一月の別院でのフードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒―

第十三組廣永寺、第十五組明覺寺、第二十三組慶誓寺匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は三月二十四日（金）です。

その他の講座案内

○別院書道教室（生徒募集中！）

〔月二回第二、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師　木原光威氏（新潟県書道協会理事）

月謝　三，二〇〇円（テキスト代含む）

参加者の感想は別院のホームページの「別院に想う」のコーナーの「別院書道教室に入会して」をご覧ください。初心者から有段者まで、小学生から大人まで、ご要望に応じて練習できます。

https://sanjobetsuin.or.jp/10519-2/

普段は半紙ですが、たまに条幅（大型書道）の稽古などもあります！
（写真は生徒）

随時募集中

○有志の会庭講【毎月十三日】

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか？

毎月十時から、午後は定例法話を聴聞します。

二月は年間計画を立てます。

お気軽にご参加ください。

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。三月には春彼岸の立花を行う予定です。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊（絵像）をお迎えして、聞法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修について

半日の奉仕研修等にも対応しております。

ぜひご検討ください。

【奉仕研修冥加金】

一人あたり半日（午前または午後）五百円、一日千円

一泊二日は上記の冥加金に順じて半日五百円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修冥加金に含まれる。②シーツ等クリーニング代千円

③食事代　ご要望等ございましたらご相談承ります。

◆◆編集後記◆◆

ご存じの通り、本年三月二十五日より四月二十九日までの期間中、本山にて「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」がお勤まりになります。今回、三条別院へ慶讃法要の参衆加勢のお話をいただいた際に御輪番から「今後、二十年程はこのような大きな法要はない」と言われ、教区での御遠忌・お待ち受け慶讃法要とここ十年程の間に大きな法要に出遇わせていただくことが多くあったなかで、どこか「いつでも出遇うことができる」という勝手な思いが自分の中にできつつあったのではないかということにハッとさせられました。あの時、ああしていればと後々悔いることは、真宗の道に入って「後生の一大事」をおろそかにしていたということだと思い、この程、参衆加勢に加えていただくことにしました。

三条別院では慶讃法要の団体参拝を計画、現在参加者を募っています。皆さま、後々悔いの残らぬよう、よろしければご一緒に慶讃法要を御参詣いたしましょう。

（松浦）

▲詳しくは四頁及びチラシ・ホームページをご覧ください！